

カキハガビチョウの生態観察

劉煥金¹・薛紅忠²

1 山西省生物研究所・2 山西省歴山国家級自然保護区

訳 福井和二

カキハガビチョウ (*Garrulax elliotii*) は中国特産の鳥類である。我われは 1990 年～1991 年の間に山西省歴山国家級自然保護区でカキハガビチョウの生態観察を行なった。1993 年 5 月～7 月に再び補充調査を行なったので報告する。

観察場所と方法

歴山国家級自然保護区は山西省の南端、中条山の東部で、垣曲、沁水、翼城、陽城の四県の県境にあり、北緯 35° 16′ ～35° 27′，東経 111° 51′ ～112° 6′ 主峰舜王坪の標高は 2321m、山は南が緩やかな斜面、北は険しい岩石急斜面で、域内には高木が茂り、灌木が密生し、水源が豊かである。高層の高木は油松 (*Pinus tabulaeformis*)¹、アベマキ、デロ、シラカバなどで、中層灌木では沙棘 (*Hippophae rhamnoides*)²、黄刺玫 (*Rosa xanthina*)³、ムクゲ等が見られる。

本保護区は大陸性気候で、年平均気温 12～14°C、無霜期間が 180～200 日、年降水量 700～800mm、主要農作物は小麦である。

カキハガビチョウの個体群密度の調査は、その繁殖前の 4 月と繁殖後の 8 月に、2 km/h、左右 25m のラインセンサスにより年 4 回行なった。またあわせて垂直分布の調査も行なった。

生息地

繁殖期における営巣場所；針葉、広葉混交林、疎林、灌木林の下生えである沙棘、黄刺玫、レンギョウなどのある日当たりのよい南斜面で多く見られる。

採食場所；灌木林の中、林道周辺、林縁部、日向斜面の灌木林等。

休息場所；様々な種類の灌木の梢、高木の梢、枯れ木、倒木および溪流の岩の上等。

ねぐら；年間を通してねぐらの位置は一様ではない。繁殖期は巣の近くにねぐらを取り、秋の餌が豊富な時期のねぐらは一定せず、冬の積雪期には日当たりのよい南斜面の疎林にねぐらを取り、非常に早い時間にねぐら入りする。

垂直高度による生息状況も、季節的に変化する。夏はより高いところへ、また日陰斜面にも活動の場所が広がる。冬は反対に低山帯および日向斜面で行動することが多くなる。

個体群密度

カキハガビチョウの個体群密度は繁殖期前の 4 月では 0.52 羽、繁殖後の 8 月で 0.58 羽、繁殖期前に対し、繁殖後では 11.5% 増加していた。総個体群密度 0.56 羽である。

垂直分布

カキハガビチョウは舜王坪頂上の亜高山草地を除いて各高度の植物相に均一に見られたが、特に針葉広葉混交林に比較的多く見られ、総個体数 (143 羽) に対して 60.14% を占めた。

食性

銃により捕獲したカキハガビチョウの標本 28 羽について、胃内容物を調査したのでその結果を表 1 に示す。

表 1 によりわかることは、カキハガビチョウの食物は昆虫類、高木、灌木、草本などでその割合は、56.20%、15.63%、18.75%、9.39% であった。繁殖期から夏期 (6～7 月) は昆虫食が主体で、その他の季節では雑草の種子、漿果が多くなる。

表1 カキハガビチョウの食性

食物	組成	出現回数	出現率	重量/g	重量率	%
昆 虫 類	蛾類	27	6.59	2.0	6.25	56.20
	蝶類	27	6.59	2.0	6.25	
	蜂類	25	6.10	2.0	6.25	
	虻類	25	6.10	1.5	4.67	
	蠅類	25	6.10	1.5	4.67	
	甲虫	23	5.61	1.0	3.13	
	蟬類	23	5.61	1.0	3.13	
	蚊類	20	4.88	1.0	3.13	
	蟻類	20	4.88	1.0	3.13	
	蝗虫	17	4.15	1.5	4.67	
	トンボ類	15	3.66	2.0	6.25	
	蜘蛛類	14	3.41	1.5	4.67	
高 木	松実	28	6.83	3.0	9.38	15.63
	柏実	20	4.88	2.0	6.25	
	サザシ	20	4.88	2.0	6.25	18.75
灌 木	グミ	20	4.88	2.0	6.25	
	荊実	20	4.88	2.0	6.25	
草 本	藁類	15	3.66	1.0	3.13	9.39
	未熟モミ	14	3.41	1.0	3.13	
	豆類	12	2.93	1.0	3.13	
計		410	100.00	32.0	100.00	100.00

胃の剖検 28羽, その内成鳥 12羽, 幼鳥 16羽, 雌 17羽, 雄 11羽.

繁殖

カキハガビチョウは本保護区では留鳥である。毎年4月繁殖場所で飛び交うようになり、5月上旬活動が活発になり、鳴き声も多くなる。その鳴き声は“wan-jiu-”或いは“xue-qiu-”と後をやや長く引くように、澄んだはつきりとした声で、頻繁に鳴く。その声は低い灌木林に響きわたる。

営巣は、早いもので5月14日、観察した5巣の巣作り期間は9~12日、営巣環境の記録を表2に示す。

表2 カキハガビチョウ営巣環境調査

年	場所	営巣環境	標高	巣材	地上ヨリ高さ/m	営巣開始日	築巣日数/日
1990	垣曲県馬家河	針広混交林	800	黄刺玫	1.49	5月17日	9
1991	陽城県倉河	灌木疎林	850	沙棘	1.85	5月19日	11
1992	沁水県張馬	南斜面道路際灌木林	1350	レンギョウ	1.78	5月14日	12
計			800~1350		1.40~11.85	5月14日~19日	9~12

表2によるとカキハガビチョウの巣は標高800~1350mに多く見られ、地面からの距離は1.40~1.85mの枝の又の部分に作る。5個の巣の測定平均値は巣高129(122~132)mm, 深さ61(57~62)mm, 外径149(140~159)mm, 内径82(79~84)mmで、雌雄共に巣づくりに参加

する。巣材は蘚苔、イネ科の茎、細い草の根で作られ、内壁には鬚状の根が多く使われている。巣は碗状で粗雑な作りだが、たやすくは壊れない。

産卵は早いものは5月27日、年1回繁殖、1腹卵数は3~5卵、平均4卵、毎日1卵ずつ産み、卵の色は淡い藍色、形の不揃いな紫褐色の斑点がある。卵形は鈍端の卵型で大小不均一である。20卵の卵サイズは28(36⁴~30)mm×20(18~21)mm、卵重5.5(5.0~6.5)g。最も早い孵化は6月3日で、抱卵期間は16±0.5日で、全体の孵化率は85%であった。

産まれたばかりの雛は平均体重5(4.5~5.7)g(n=17)。雛は16日で巣立ちし、その時の体サイズは成鳥に比較して体重72%、全長78%、翼長71%、尾長34%、跗蹠100%、嘴峰92%であった。

訳注

ユウソン

*1 油松 (*Pinus tabulaeformis*) ; マツ科, マツ属, 遼寧省, 内モンゴ, 河北省, 山東省, 河南省, 山西省, 陝西省, 甘肅省, 青海省, 四川省北部に分布。

*2 沙棘 (*Hippophae rhamnoides*) ; グミ科, 華北省, 西北, 四川省, 雲南省, チベットに分布。

ホアンラメイ

*3 黄刺玫 (*Rosa xanthina*) ; バラ科, 黒竜江省, 吉林省, 遼寧省, 内モンゴ, 河北省, 山東省, 山西省, 陝西省, 甘肅省に分布。

*4 36 ; 26 の誤りと思われる。